

佐竹音次郎 福祉のこころ 宣言

△さたけおとじろう ふくしのこころ せんげん▽

「佐竹音次郎」は、わたしたちが愛すべき郷土・四万十市竹島出身の児童福祉先駆者であります。

「佐竹音次郎」は、明治時代後期に当時としては孤児院と呼ばれていた児童養護施設を自ら小児保育園と名付け、児童福祉に新しい道を切り開いていきました。

「佐竹音次郎」が提唱した保育とは、子どもを受け入れたからにはすでに孤児ではなく、保らかに育てる愛児であるとの考え方であります。

「佐竹音次郎」は、信奉したキリスト教の中心的教理である「隣人愛」を基に、他人の子どもでも自分の子どものように育てる「聖愛一路」の思想を貫きました。

「佐竹音次郎」が運営した児童養護施設は日本のみならず、戦乱のアジア各国へも展開され、多くの困窮した幼い魂を救いました。

わたしたちは、郷土の偉人「佐竹音次郎」の福祉の心をかけがえのない遺産として継承し、次のように宣言します。

一 わたしたちは音次郎のように、どのような立場の子どもであっても分け隔てなく愛し、ひとりの人格として尊重していきます。

二 わたしたちは音次郎のように、夢ある未来に向かって自分に与えられた道で一生懸命に歩んでいきます。

三 わたしたちは音次郎と同じ郷土に生かされている者として、この聖愛一路の精神を広め、伝えていきます。

二〇一四年五月二四日

保育の父 佐竹音次郎にまなぶ講演会 出席者一同